

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人千葉市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	日本語教育・相互理解促進体制整備事業「ちば多文化協働プロジェクト」
事業の目的	外国人の日本語学習の質の向上と機会拡充、および多様な言語・文化を背景に持つ市民同士の対話を通じた相互理解を図る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	千葉市内には協会の日本語学習支援事業のほか、21か所の日本語教室が存在する。文化庁委託事業「地域日本語教育実践プログラム」を受託した平成26年度の時点で、地域では旧来の文法積み上げテキストを利用した学習が一定割合を占めており、地域日本語学習に特有の時間的・物理的制約がある中、日本語習得の面からも、また、外国人市民と日本人市民の対話を通じた相互理解という面からも、実効性に課題があった。 H26年度以来5年間、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育実践プログラムとして、対話を中心に据えた日本語教育の取組をおこない、外国人市民を主体的な発信者と捉えた内容重視・学習者主体の日本語クラスと、同コンセプトに基づく日本語ボランティア研修を実施してきた。また外国人市民と接する機会を持たない市民層を対象とした多文化理解の取組もおこなったことにより、当協会の学習システムの改革をはじめとして、各機関との連携も進み、体制整備が進んできたが、さらに地域の日本語教室・行政・企業との連携を強化する必要がある。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	【取組1. 日本語教育】 対話型学習活動の推進により、外国人の日本語力の向上と地域社会への参加意欲促進を図った。同時に、すべてのクラスを日本語ボランティアや一般日本人市民との協働で行い、対話の重要性について啓発した。 【取組2. 支援者研修】 対話型学習活動の普及促進を目的とした研修を行い、日本語活動の質向上と新たな支援者の確保を図った。同時に、対話型の日本語クラスをファシリテートできる人材の育成を図った。 【取組3. 地域における多文化理解促進と成果普及】 多文化理解セミナー、外国人市民の庁内活動参加推進、企業に対する日本語教育啓発、プロジェクトフェイスブック等での事業告知や事業報告を行い、日本語教育の重要性を周知した。 【取組4. ちば多文化協働ネットワーク整備】 関係部署と今後の連携について意見交換を行った。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	神吉 宇一	武蔵野大学大学院
2	小倉 とも子	千葉市中央区役所地域振興課地域づくり支援室
3	新倉 涼子	千葉大学
4	野口 恭子	特定非営利活動法人 千葉市老人福祉施設協議会人材確保・定着推進委員会
5	萬浪 絵理	公益財団法人千葉市国際交流協会
6	鈴木 恵美子	公益財団法人千葉市国際交流協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年6月1日 (金) 15:00～17:30	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一、小倉とも子、新倉涼子、野口恭子、萬浪絵理、鈴木恵美子	1. 事業概要（事業計画・事業内容・事業運営方針）の検討
2	平成30年10月26日 (金) 15:00～17:30	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一、小倉とも子、新倉涼子、萬浪絵理、鈴木恵美子	1. 実施済み事業内容報告・質疑応答 2. 今後の事業内容検討 3. 次年度事業計画検討
3	平成31年2月8日 (金) 14:00～16:30	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一、小倉とも子、新倉涼子、野口恭子、萬浪絵理、鈴木恵美子	1. 事業内容報告・質疑応答 2. 事業評価

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	千葉市関係各課、保健福祉センター、千葉市子育て支援館、日本語教室等と連携して、日本語クラスや支援者研修、多文化理解セミナーを実施した。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	日本語教育コーディネーターの萬浪は取組を企画、コーディネートした。日本語クラスに関しては、中核メンバーである指導者とともに準備にあたることで人材育成を図った。 協会職員鈴木はシステムコーディネーターとして当協会内部のリソースを生かし、取組の実現を支えた。 外部機関への新規の働きかけを要する場合は協会の常務理事兼事務局長や事務局長補佐が担い、地域連携の強化にあたった。 また、当協会内部では委託事業以外の取組と連動させながら、長期的な視野に立った効率的な事業実施をおこなった。 取組全体を通じ、取組4のネットワークを活かして他機関と連携・協働するほか、事業の終了を待たずに随時、運営委員から助言や評価を受け、それを反映させつつ、適切な事業実施をした。
----------	---

3. 各取組の報告

<取組1>											
取組の名称		日本語クラス									
取組の目標		・学習者が生活密着のテーマに関して日本の状況を知り自分や自国を内省するという活動を通して、日本の生活についての意識化が促進される ・スピーチをしたり対話セッションに参加したりすることを通じて日本語の運用能力を培う。 ・学習者が考えや体験を発信するという行為により、対話に参加する日本人の多文化理解が進み、また、日本語弱者の苦労や不安への共感が生まれる。日本人の意識にそういった変化を起こすことが受容感や自己効力感につながる。									
取組の内容		A.「テーマでつながる日本語クラス」(健康、学校) ①テーマに関する調べ学習やディスカッションや専門家による講義 ②テーマについて自身の知識・意見・経験のスピーチ及び日本人とのグループセッション ③作文やミニドラマの形で内容をまとめたり発信したりする表現活動 B.「日本語活動ペア実践講座」 協会で通常1対1で学習活動をしている外国人と支援者の合同で対話型の学習を行った。 C.「よみかきクラス」 長年日本で生活して会話力はあっても文字の読み書きができない、という人を対象に、具体的な生活場面を取り上げながら学習した。 D.「初級クラス」 基礎的な文の形を学んで、基本的なことが話せるようになることを目標に、やさしいことばと、短い文で、自分のことを書いたり、話したりした。 E.プロジェクト会議 協働メンバーと、日本語クラスのあり方と今後の方向性を検討した。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・生活課題の解決につながり、社会参加が促進されるよう、参加外国人が生活に密着したテーマについて日本を理解したり、必要な語彙や表現を習得した。 ・自己の体験や考えを発信し日本人と対話することが参加外国人のエンパワメントとなり、積極的・自律的に地域活動に参画し地域社会の活性化に寄与できるよう促した。 ・テーマに関心を持つ外国人参加者を募る過程で様々な機関や個人と連携しネットワークの強化を図った。 ・学習支援者に対して、対話型教室活動の具体的なコンテンツを提供し、取組の拡散を図った。 ・異なる視点から物を見ることの価値に対する気づきを促し、日本人側の異文化理解を進めた。									
取組による日本語能力の向上		・関心のあるテーマで日本人参加者との対話をおこなうことで、単語や表現を能動的に習得できた。また、道具としての日本語を習得するだけでなく、日本人参加者と対等な立場でテーマについて自分の考えや経験を述べることで自尊心を伴った言語習得ができた。 ・対話型のグループ学習により、トピックに沿って話す・聞く・読む・書く、の様々な学習活動を通じて運用能力が向上できるとともに、他の参加者の学習リソースを知り、「日本語の学び方」が共有できた。 ・読み書きクラスでは、各学習者が協働で学習を行うことで学習方略を共有できた。生活に密着した単語や表現を習得できた。 ・初級クラスでは、まとまった量のテキストのリスニング・リピーティング・シャドーイングを行い、リスニングの力を伸ばすことができた。基礎的な表現や文型を使って身近なテーマで自己表現ができるようになった。									
参加対象者		外国人(取組A,B,C,D)、 学習支援ボランティア希望者(取組A,B,C,D)、 交流に関心を持つ一般市民(取組A)、 協働メンバー(取組E)					参加者数 (内 外国人数)		141人 (73人)		
広報及び募集方法		・協会情報誌、協会ホームページ、プロジェクトフェイスブックに募集記事掲載 ・協会登録者へ案内メール送信 ・ちば市政だよりに募集記事掲載 ・入国管理局出張所、ハローワーク、区役所、保健福祉センター等へ募集ちらし掲示依頼									
開催時間数		総時間104時間					A:3時間×3回×2期、B:2時間×1回×7期、 C:2時間×5回×3期、D:2時間×10回×2期、E:2時間×1回				
主な連携・協働先		千葉市健康支援課、東京入国管理局千葉出張所、ハローワークちば、千葉市区役所・保健福祉センター									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ		30	7	0	5	0	7	1	0	8	68
		アフガニスタン(1人)、イギリス(3人)、イラン(1人)、スリランカ(3人)、ドイツ(1人)、ミャンマー(1人)、モンゴル(3人)、ロシア(1人)、台湾(1人)									
実施内容											
A テーマでつながる日本語クラス 上段：学習者数 下段：支援者数・その他参加者数											

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	授業概要	講師・指導者名	
1	平成30年6月15日(金) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流プラザ	3人 4人	第1期(健康)ー①	健康に関する講話と内容の共有。健康に関する話し合い、スピーチの準備。	山田由美子、積田裕子(講話講師、千葉市健康支援課)、萬浪絵理(指導補助者)	
2	平成30年6月22日(金) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流プラザ	4人 9人	第1期(健康)ー②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流、対話、タスク活動。	萬浪絵理、山田由美子(指導補助者)	
3	平成30年6月29日(金) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流プラザ	2人 5人	第1期(健康)ー③	ふりかえり、健康法紹介ポスターづくり、発表。	山田由美子、萬浪絵理(指導補助者)	
4	平成30年10月16日(火) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流プラザ	3人 4人	第2期(学校)ー①	日本の小中学校文化に関する講話と内容の共有。学校に関する話し合い、スピーチの準備。	藤平真由美、間宮裕子(講話講師)、萬浪絵理(指導補助者)	
5	平成30年10月23日(火) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流プラザ	3人 10人	第2期(学校)ー②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流、対話、タスク活動。	萬浪絵理、藤平真由美(指導補助者)	
6	平成30年10月30日(火) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流プラザ	3人 3人	第2期(学校)ー③	ふりかえり、ミニドラマづくり。	藤平真由美、萬浪絵理(指導補助者)	
計		18時間						

B 日本語活動ペア実践交流会

上段：学習者数
下段：支援者数

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成30年5月28日(月) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 2人	グループ対話実践① 電気製品	テーマについて経験や考えを共有し、相互理解を図りながら、語彙や表現の幅を広げる／コミュニケーション方略を学ぶ	萬浪絵理	
2	平成30年6月9日(土) 9:30~11:30	2	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	グループ対話実践② 便利なもの	テーマについて経験や考えを共有し、相互理解を図りながら、語彙や表現の幅を広げる／コミュニケーション方略を学ぶ	萬浪絵理	
3	平成30年7月25日(水) 13:30~15:30	2	千葉市国際交流プラザ	5人 4人	グループ対話実践③ びっくりしたこと	テーマについて経験や考えを共有し、相互理解を図りながら、語彙や表現の幅を広げる／コミュニケーション方略を学ぶ	萬浪絵理	
4	平成30年8月28日(火) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 1人	グループ対話実践④ 困ったこと	テーマについて経験や考えを共有し、相互理解を図りながら、語彙や表現の幅を広げる／コミュニケーション方略を学ぶ	室田真由見	
5	平成30年9月28日(金) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	1人 2人	グループ対話実践⑤ 防災	テーマについて経験や考えを共有し、相互理解を図りながら、語彙や表現の幅を広げる／コミュニケーション方略を学ぶ	室田真由見	
6	平成30年10月29日(月) 13:30~15:30	2	千葉市国際交流プラザ	8人 8人	グループ対話実践⑥	テーマについて経験や考えを共有し、相互理解を図りながら、語彙や表現の幅を広げる／コミュニケーション方略を学ぶ	萬浪絵理	
7	平成30年12月13日(木) 13:30~15:30	2	千葉市国際交流プラザ	5人 3人	グループ対話実践⑦	テーマについて経験や考えを共有し、相互理解を図りながら、語彙や表現の幅を広げる／コミュニケーション方略を学ぶ	萬浪絵理	
計		14時間						

C 日本語読み書きクラス

上段：学習者数
下段：支援者数

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成30年9月12日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 4人	第1期 読み書き①	かなの練習シート、学習院大学作成教材『日本に住もう』、商品ラベル等のレリア等を使い、能力とニーズに応じてひらがな、カタカナの読み書きを練習。	萬浪絵理	
2	平成30年9月19日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 3人	第1期 読み書き②	かなの練習シート、学習院大学作成教材『日本に住もう』、商品ラベル等のレリア等を使い、能力とニーズに応じてひらがな、カタカナの読み書きを練習。	萬浪絵理	
3	平成30年9月26日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 3人	第1期 読み書き③	かなの練習シート、学習院大学作成教材『日本に住もう』、商品ラベル等のレリア等を使い、能力とニーズに応じてひらがな、カタカナの読み書きを練習。	萬浪絵理	
4	平成30年10月3日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 4人	第1期 読み書き④	かなの練習シート、学習院大学作成教材『日本に住もう』、商品ラベル等のレリア等を使い、能力とニーズに応じてひらがな、カタカナの読み書きを練習。	萬浪絵理	
5	平成30年10月10日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 4人	第1期 読み書き⑤	かなの練習シート、学習院大学作成教材『日本に住もう』、商品ラベル等のレリア等を使い、能力とニーズに応じてひらがな、カタカナの読み書きを練習。	萬浪絵理	
6	平成30年11月22日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人 2人	第2期 読み書き①	『日本に住もう』、『漢字だいじょうぶ!』、レリアを使ってかなや漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
7	平成30年11月29日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 2人	第2期 読み書き②	『日本に住もう』、『漢字だいじょうぶ!』、レリアを使ってかなや漢字文の読み書きを練習。	鈴木恵美子	
8	平成30年12月6日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 2人	第2期 読み書き③	『日本に住もう』、『漢字だいじょうぶ!』、レリアを使ってかなや漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	

9	平成30年12月13日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 2人	第2期 読み書き④	『日本に住もう』、『漢字だいじょうぶ!』、レアリアを使ってかなや漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
10	平成30年12月20日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 4人	第2期 読み書き⑤	『日本に住もう』、『漢字だいじょうぶ!』、レアリアを使ってかなや漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
11	平成31年1月16日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人 3人	第3期 読み書き①	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
12	平成31年1月23日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人 2人	第3期 読み書き②	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
13	平成31年1月30日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	第3期 読み書き③	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
14	平成31年2月6日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人 3人	第3期 読み書き④	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
15	平成31年2月13日 (水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第3期 読み書き⑤	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	

計 30時間

D 日本語初級クラス					上段：学習者数 下段：支援者数			
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成30年5月17日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 0人	第1期-① U.3 好きなもの、好きなことを言う	『NEJ』を使った学習方法の説明/U.3マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
2	平成30年5月24日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	第1期-② U.4 毎日の生活について話す	前回テーマの作文の共有/U.4マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
3	平成30年5月31日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人 6人	第1期-③ U.5 金曜日の夜の過ごし方について話す	前回テーマの作文の共有/U.5マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
4	平成30年6月7日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	第1期-④ U.6 友人や家族などのお出かけについて話す	前回テーマの作文の共有/U.6マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
5	平成30年6月21日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	第1期-⑤ U.7 すずめる、誘う、申し出る	前回テーマの作文の共有/U.7マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
6	平成30年6月28日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人 3人	第1期-⑥ U.8 家族について話す	前回テーマの作文の共有/U.8マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
7	平成30年7月5日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人 4人	第1期-⑦ U.9 希望や望みを言う、何かをしたことがあるかを言う	前回テーマの作文の共有/U.9マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
8	平成30年7月12日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 3人	第1期-⑧ U.10 支持や注意を与える、頼む	前回テーマの作文の共有/U.10マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
9	平成30年7月19日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第1期-⑨ U.11 義務や仕事を言う、してはいけないことを言う	前回テーマの作文の共有/U.11マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
10	平成30年7月26日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 4人	第1期-⑩ U.12 望ましい行為を言う	前回テーマの作文の共有/U.12マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文	萬浪絵理	
11	平成31年1月10日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 2人	第2期-① U.3 好きなもの、好きなことを言う	『NEJ』を使った学習方法の説明/U.3マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
12	平成31年1月17日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 2人	第2期-② U.4 毎日の生活について話す	前回テーマの作文の共有/U.4マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
13	平成31年1月24日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 1人	第2期-③ U.5 金曜日の夜の過ごし方について話す	前回テーマの作文の共有/U.5マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
14	平成31年1月31日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第2期-④ U.6 友人や家族などのお出かけについて話す	前回テーマの作文の共有/U.6マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
15	平成31年2月7日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 2人	第2期-⑤ U.7 すずめる、誘う、申し出る	前回テーマの作文の共有/U.7マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
16	平成31年2月14日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第2期-⑥ U.8 家族について話す	前回テーマの作文の共有/U.8マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
17	平成31年2月21日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第2期-⑦ U.9 希望や望みを言う、何かをしたことがあるかを言う	前回テーマの作文の共有/U.9マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
18	平成31年2月28日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 1人	第2期-⑧ U.10 支持や注意を与える、頼む	前回テーマの作文の共有/U.10マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	鈴木恵美子	
19	平成31年3月7日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第2期-⑨ U.11 義務や仕事を言う、してはいけないことを言う	前回テーマの作文の共有/U.11マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文導入	萬浪絵理	
20	平成31年3月14日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 2人	第2期-⑩ U.12 望ましい行為を言う	前回テーマの作文の共有/U.12マスターテキストの理解/音源を使用した発話練習/自己表現/作文	萬浪絵理	

40時間

E プロジェクト会議

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成31年1月22日(月) 14:00~16:00	2	千葉市国際 交流プラザ	萬浪絵理、小野聡、高木敏 子、高岡雅子、平澤昭男、藤 平真由美、山田由美子、鈴木 恵美子	今年度の日本語クラス等について	今年度のクラスをふり返り、意見 交換
計		2時間				

(1) 特徴的な活動風景 (2~3 回分)

○取組事例① テーマでつながる日本語クラス(健康)

【第3回 平成30年6月29日】

健康というテーマのクラスのステップ1、2でわかったことや、お気に入りの健康法について、参加者同士で話しながらポスターにまとめ、ひとりずつ発表と質疑を行った。ポスターづくりと発表には、日本語学習者も支援者も同じ立場で参加した。3回のクラスで参加者同士がたくさん話しながら、健康というテーマにおいて楽しく相互的に、協働学習を行うことができた。



○取組事例② 読み書きクラス

【第2回 平成30年1月23日】

日本語を話すことにはある程度慣れているが漢字の読み書きを学びたい、という学習者を対象に、漢字学習の入り口をつくった。漢字の読み方は翻訳アプリのカメラ入力を使って予習してることが宿題になっていたため、その答え合わせをした。書き方は「筆順」アプリを使って各自のスマホで練習した後、手書きは自宅作業とした。曜日や「給与」「定休日」などの漢字を覚えたあと、学習者と支援者数名ずつでフリーペーパーを見ながら、飲食店の情報や求人広告を読み解いた。



(2) 目標の達成状況・成果

【日本語クラス】 定量アンケート結果： 『テーマでつながる日本語クラス』学習者、支援者、交流会参加とともに参加した満足度が高かった。学習者では1期「テーマについて知識や考えが深まった」の項目は1回目よりも3回目のほうが達成感があがったが、他の項目は横ばいあるいは、少し達成感が低まっている。回を重ねるにつれて、支援者や他の参加者とのやり取りが多くなったり、行う活動がより複雑になっているためか。2期ではほとんどの項目で、1回目より3回目のほうが達成感が上がっている。 『日本語ペア実践講座』約80%が参加して普段の活動に参考になった、と回答している。 『読み書きクラス』クラスの回数・時間・受講料・進度においては、「ちょうどよい」という回答が多く、クラス設定はほぼ問題はないと考えられる。 クラスに参加したあとの変化として、75%以上が「読むこと」「書くこと」に自信がついたと回答。全員が「読み書きの勉強の意欲があった」と回答しており、クラスの成果が得られたといえる。 また、「読み書きの勉強法方法が分かった」、「ほかの人と協力しながら勉強する方法が分かった」、でも達成感が高く、学習者の自立を促すという、プロジェクトのコンセプトでも、成果が得られたといえる。 『初級クラス』クラスに参加したあとの変化として、「日本語で話せることが増えた・これから増えそう」「日本語の基礎的な表現について知識が増えた」に60%が5を回答している。また、全員が「いろいろな人と交流しながら勉強する方法がわかった」、「新しい学習方法や道具を知った」、でも達成感が高く、初級クラスでも学習者の自立を促すという、プロジェクトのコンセプトでも、成果が得られたといえる。 「健康」をテーマにしたクラスでは、外国人参加者から「新しいことを学べた」「健康のことがよくわかった」「とてもおもしろくてインタラクティブだった。話すときによく詰まってしまったがグループの人が助けてくれた」などのコメントがあった。テーマをめぐってさまざまな言語活動を組み合わせることで、内容についても日本語についても学ぶことができたと考えられる。グループ活動やポスターづくりで外国人参加者と日本語交流員が同じ活動に臨むことによって、「インタラクティブだった」という評価が得られた。地域市民や交流員から「外国の人が生き生きと楽しそうだった」「みんなが楽しく参加していたのがとてもよかった」といった声があり、外国人参加者の受容感や自己効力感につながるクラスが実施できたと考えられる。 読み書きクラス、初級クラス、日本語ペア実践講座では、カメラ入力で文字を読み取る翻訳アプリや筆順のアプリを奨励し、教室内外で主体的に学習を進められる環境を作った。ごく初級の知識があるが会話能力のない人、反対に、話すのは不自由ないが漢字やかなの読み書きができない人など、多様なニーズに細かく応えるクラスを設置し、それぞれ生活上の課題に目を向けながら日本語交流員との対話や協働によって日本語学習を進める形式をとった。参加者による評価から、概ね目標を達成できたと言える。 【プロジェクト会議】 中核交流員から、日本語クラスのほか、交流をととした日本語学習支援の方法や交流員の育成について今後に資する意見を得ることができた。			
---	--	--	--

(3) 今後の改善点について

読み書きクラスは1期が5回、初級クラスは10回としたが、終了後に参加者から継続してほしいという要望が出た。その都度、次の期を案内したり、自主学習グループの設置を検討したりした。アンケート結果からもクラスの回数をもう少し多くする、進度を参加者の様子をみながら工夫する必要があることがわかった。本来はより多くのクラスを年間計画の中で設定することが望ましい。クラスの指導者やファシリテーター人材については、日本語教育の専門知識や経験、または対話を促進できるファシリテーション能力のいずれがより求められるのか、クラスの目的や方法によって異なるため、必要な役割と育成方法について更なる検討が必要である。			
--	--	--	--

＜取組2＞			
取組の名称		支援者研修	
取組の目標		・講座終了後、参加者による学習支援の具体的な内容にカリキュラム案など、生活に密着したコミュニケーション支援の内容が取り込まれる。 ・対等な関係づくりを目指した活動が普及する。 ・支援活動未経験者が安心と期待を持って活動を始められる。 ・支援者が自己の学習支援のふりかえりができる。	
取組の内容		A. 新基本講座 基礎編、実践編 日本語初級者へのコミュニケーション支援に関する基礎知識提供と、傾聴スキルや「やさしい日本語」の演習、対話活動の素材紹介と演習。 B. 東京オリンピックパラリンピックで外国人と日本語で話そう 一般市民を対象に、外国人とやさしい日本語で話せるようにする講座。 C. クラス支援者・ファシリテーター研修 日本語クラスを進行できる支援者・ファシリテーターの育成。	
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動		
取組による体制整備		・既存の支援者の質の向上および新たな支援者を拡充して、日本語教育体制を強化した。	
取組による日本語能力の向上			
参加対象者		学習支援ボランティア希望者および経験者、交流に関心を持つ一般市民	参加者数 (内 外国人数) 173人 (1人)

広報及び募集方法		・協会情報誌、協会ホームページ、プロジェクトフェイスブックに募集記事掲載 ・協会登録者へ案内メール送信 ・ちば市政だよりに募集記事掲載 ・区役所、コミュニティセンター、公民館、ことぶき大学校、ボランティアセンター、生涯学習センター、市民活動支援センター等へ募集ちらし掲示依頼								
開催時間数		総時間48.5時間				A:Ⅰ 2時間×3回×4期Ⅱ 2時間×2回×4期、 B:2時間×1回×2期、C:1.5時間×1回×3期				
主な連携・協働先		区役所、コミュニティセンター、公民館、ことぶき大学校、ボランティアセンター、生涯学習センター、市民活動支援センター								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	1									172
※該当する場合のみ										
実施内容										

A 新基本講座

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者名
1	平成30年5月22日(火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	14人	基礎編第1期-① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	
2	平成30年5月29日(火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	13人	基礎編第1期-② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
3	平成30年6月5日(火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	13人	基礎編第1期-③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	鈴木恵美子	
4	平成30年6月12日(火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人	実践編第1期-① 対話型の日本語活動のために	すきなもののシート、語彙マップを活用した活動の演習	萬浪絵理	
5	平成30年6月19日(火) 13:00~15:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人	実践編第1期-② 対話型の日本語活動のために	対話活動における「質問のつくりかた」の演習	萬浪絵理	
6	平成30年9月13日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	26人	基礎編第2期-① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	
7	平成30年9月20日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	25人	基礎編第2期-② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
8	平成30年9月27日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	24人	基礎編第2期-③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	鈴木恵美子	
9	平成30年10月4日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	21人	実践編第2期-① 対話型の日本語活動のために	すきなもののシート、語彙マップを活用した活動の演習	萬浪絵理	
10	平成30年10月11日(木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	20人	実践編第2期-② 対話型の日本語活動のために	対話活動における「質問のつくりかた」の演習	萬浪絵理	
11	平成30年11月7日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	13人	基礎編第3期-① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	
12	平成30年11月14日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	11人	基礎編第3期-② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
13	平成30年11月21日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	11人	基礎編第3期-③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	鈴木恵美子	
14	平成30年11月28日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人	実践編第3期-① 対話型の日本語活動のために	すきなもののシート、語彙マップを活用した活動の演習	萬浪絵理	
15	平成30年12月5日(水) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人	実践編第3期-② 対話型の日本語活動のために	対話活動における「質問のつくりかた」の演習	萬浪絵理	

16	平成31年2月9日 (土) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	20人	基礎編第4期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	
17	平成31年2月16日 (土) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	18人	基礎編第4期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
18	平成31年2月23日 (土) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	19人	基礎編第4期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	鈴木恵美子	
19	平成31年3月2日 (土) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	16人	実践編第4期－① 対話型の日本語活動のために	すきなもののシート、語彙マップを活用した活動の演習	萬浪絵理	
20	平成31年3月9日 (土) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	14人	実践編第4期－② 対話型の日本語活動のために	対話活動における「質問のつくりかた」の演習	萬浪絵理	

40時間

B 東京オリンピック・パラリンピックで外国人と日本語で話そう

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成30年7月4日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	7人	やさしい日本語の背景と実践	外国人とのコミュニケーションにおけるやさしい日本語の有用性を知り、作り方や使い方を学ぶ	萬浪絵理	
2	平成31年1月29日 (火) 13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	21人	やさしい日本語の背景と実践	外国人とのコミュニケーションにおけるやさしい日本語の有用性を知り、作り方や使い方を学ぶ	萬浪絵理	

4時間

C クラス支援者・ファシリテーター研修

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成30年6月22日 (金) 13:30～15:00	1.5	千葉市国際交流プラザ	8人	テーマでつながる日本語クラス	テーマでつながる日本語クラス支援のポイント	萬浪絵理	
2	平成30年6月28日 (木) 13:30～15:00	1.5	千葉市国際交流プラザ	10人	日本語初級クラス	日本語初級クラス支援のポイント	萬浪絵理	
3	平成30年9月19日 (水) 13:30～15:00	1.5	千葉市国際交流プラザ	3人	日本語読み書きクラス	日本語読み書きクラス支援のポイント	萬浪絵理	

4.5時間

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例① 日本語交流員新基本講座基礎編 第2期

【第2回 平成30年11月14日】
交流をとおしたコミュニケーション支援の意味と方法を理解できるように、2つのワークをおこなった。はじめに、言語・文化の異なる土地で自分が生活を始めるという想定で課題や楽しみを想像し、付箋と模造紙を使ってグループで共有した。後半では、日本語に慣れていない外国人と交流や対話を行う際に欠かせないコミュニケーションスキルとして、「聴く・待つ」の演習をおこなった。



○取組事例② クラス支援者・ファシリテーター研修

【第2期 平成30年6月28日 日本語初級クラス】

日本語学習者の会話力が一般学習支援者と最低限のやりとり可能なレベルに達するよう、日本語初級クラスを設置している。本研修は、そのクラスをファシリテートする日本語教師経験者、およびサポートする学習支援者を対象にして、教材の特徴や考え方、構成などについて理解を深めてもらった。



(2) 目標の達成状況・成果

定量アンケート結果では、新基本講座では、90%以上が「とてもよかった」「よかった」と回答。予想していた内容と実際の内容が予想通りかについては、各期によって意見が分かれるが、内容は全ての講座で「期待以上」「期待どおり」に85%以上が回答していて、満足度は高くなっている。1回あたりの時間や、講座の回数でも80%以上がちょうどよいと回答している。また、東京オリンピックパラリンピックで外国人と日本語で話そう』でも、内容が「とてもよかった」「よかった」が80%以上、外国の人とコミュニケーションをとるために、このセミナーの内容は役立ちますか？の設問では全員が「役立つ」と回答している。2時間1回という時間・回数も「ちょうどよい」と回答した人が多い。

【新基本講座】

「教えるのではなく、同じ人間関係の中で、より良い理解を築くためというとても基本的で大切なことを教えてもらった」「相互理解が大切だと思った」「対話の重要性を認識した」などのコメントから、新規の活動希望者と従来からの経験者の双方に、対等な関係づくりをめざした対話活動の重要性が理解されたと言える。

「受講者も参加型で楽しかった」「スキルの習得だけでなくグループワークで様々な背景の人と一緒に学べたので1人では得られない気づきがあった」というコメントから、参加型の共同学習によって講座の効果が高まったといえる。

「会話づくりと対話のワークがとても役に立った」「すべて答えを出すのではなく、途中までは協力しながら、本人が自分で探すようにもっていくことが大切だと理解できた」などのコメントから、指導者主導型ではなく、生活密着の寄り添い型、対話型の活動の重要性が理解されたと言える。また、受講直後のアンケートだけでなく、受講後、数か月を経過した学習支援者へのインタビュー調査から、「聴く・待つ」や「やさしい日本語」など、研修で重点として提供しているコンテンツがよく記憶され、実践に生かされていることが確認できた。

【クラス支援者研修】

各日本語クラスの中で中核的に学習支援を担うメンバーに対し、それぞれのクラスでの支援のポイントや考え方についての研修をおこなった。協会では1対1の日本語活動をおこなっている一般交流員との役割の違いや、日本語教師と日本語学習支援者の連携など、大局的な位置づけについても情報提供した。クラス支援者（中核メンバー）へのアンケートには「自分の活動がどういう状態になっているのかを客観的にみることができるようになった」「待つ態度を取組への一般参加者に気づかせることができた」など、中核メンバーにはふりかえりしながら自分の活動を改善していく力や他の学習支援者に対してよりよいあり方を見せる力が育成されていることがわかった。

(3) 今後の改善点について

対話をととした日本語学習支援の活動に携わる人を増やすために、前年度までの講座の種類を見直し、構成をシンプルにした。その結果、基礎的研修5回を受講して新規参入した人数は増加した。基礎研修を受講してから交流・学習支援の活動を開始し、しばらく経ってから日本語活動ベア実践講座に参加すると実践の中で学べることも多く期待されるが、その回数（機会）はまだ少ない。

長期的な視点で成果を確認するため、講座内容が実際の日本語活動でどのくらい取り入れられているか、一部のインタビュー調査をおこなったが、1対1の場合、相手が日本語でのコミュニケーションに不自由がない外国人である場合もあった。今後の取組み改善に向けて、より精緻な調査が求められる。

＜取組 3＞ 地域の多文化理解促進												
取組 3	取 組 の 名 称		地域の多文化理解促進									
	取 組 の 目 標		・地域住民の多文化理解が促進される ・地域において外国人市民と市民との対話の機会を設ける。 ・成果普及により、広く取組に関心を持ってもらう。									
	取 組 の 内 容		A「多文化理解セミナー」 講演と交流を組み合わせ参加者同士の対話の場を創出した。また参加外国人の日本語獲得を促進した。 2種類6講座を実施した。 ①異文化理解をテーマとする有識者の講義 + 日本人・外国人の対話セッション ②外国人市民が日本語を使って自国文化(料理と絵本読み聞かせ)を参加者に教える体験型セミナー +対話セッション B「外国人市民の町内会活動参加促進」 地域多文化防災の観点から、中央区と連携し、町内自治会連絡協議会や避難所運営委員会にて外国人住民巻き込みの重要性について説明会を行った。 C「企業に対する日本語教育啓発」 日本語学習環境整備の重要性を伝え、日本語教育の体制整備の一助とするため、企業へのアンケート調査と聞き取り調査を実施した。 D ちば市国際ふれあいフェスティバルやフェイスブックページ、事業成果普及リーフレットなどを通じた成果普及									
		空白地域を含む場合、空白地域での活動										
	取組による体制整備		・セミナー参加者同士の対話の機会創出や、行政、企業に対する働きかけにより、多文化化に伴う課題と日本語教育の重要性が認識される一助となった。 ・「ちば市国際ふれあいフェスティバル」での広報や成果普及パンフレットを通して取組1, 2, 3の内容や成果を発信することにより、直接参加しなかった市民や機関に対してまちの多文化化の課題や事業の理念を伝えることができた。									
	取組による日本語能力の向上		多文化理解セミナーなどでは、一般市民と外国人市民との対話を核とするため、参加外国人はコミュニケーションの中で日本語習得を図れた。									
	参加対象者		千葉市内外の市民、行政機関等					参加者数 (内 外国人数)		262人 (89人)		
	広報及び募集方法		チラシ、広報誌、インターネット等									
	開催時間数		総時間 32時間			A:1.5時間×3回 2.5時間×1回 3時間×1回 3.5時間×1回 B:0.5時間×1回 1時間×1回 2時間×1回 D:5時間×3回						
	主な連携・協働先		千葉市中央区地域振興課、千葉市保健福祉センター健康課、院内小学校区避難所運営委員会、千葉商工会議所、千葉市子育て支援館、コミュニティセンター、千葉イスラム文化センター									
参加者の出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本		
	24	2	0	13	0	1	10	0	11	173		
イラン(1人)、エジプト(1人)、エルサルバドル(2人)、キューバ(2人)、フランス(1人)、マレーシア(2人)、メキシコ(1人)、ロシア(1人)、スリランカ(5人)、モンゴル(5人)、インド(5人)、チリ(2人)												
実施内容												
多文化理解セミナー												
上段：日本人数 下段：外国人数												
回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	概要			講師名	補助者名		
1	平成30年6月8日(金) 9:30~11:00	1.5	千葉市子育て支援館	26人 4人	外国出身パパママによる絵本の読み聞かせと子育て交流	エジプト、フィリピン、マレーシアの出身者が母語で絵本を読み聞かせし、絵本の一部を参加者もいっしょに言ってみたり、各国の手遊びを体験したりした。また、子育ての話題で交流をした。				鈴木恵美子		
2	平成30年7月6日(金) 10:00~13:00	3	新宿公民館	17人 3人	中南米の料理をつくってみよう	エルサルバドル、キューバ、メキシコの出身者と一緒にその人の国の料理を作りながら交流した。外国出身者は日本語でカレーの作り方や、自分の文化について紹介した。				萬浪絵理、鈴木恵美子		

3	平成30年 10月9日 (火) 10:00～11:30	1.5	都賀コ ミュニ ティセ ンター	7人 4人	外国出身パパ マによる絵本 の読み聞かせと子 育て交流	中国、ベトナムの出身者が母語で絵本を 読み聞かせし、絵本の一部を参加者も いっしょに言ってみたり、各国の手遊び を体験したりした。また、子育ての話題 で交流をした。		鈴木恵美子
4	平成30年10月 20日(土) 13:30～17:00	3.5	千葉市国 際交流ブ ラザ	81人 65人	日本語交流会	13人組の外国出身者の日本語スピーチ、 歌などのパフォーマンスと交流。		萬浪絵理
5	平成30年11月24 日(土) 13:30～16:30	2.5	千葉市国 際交流ブ ラザ	23人 5人	わたしの一歩!! 外国人市民と共 に生きるまちを つくる	第1部 講師とパネラーによる地域の多 文化化に関する事例紹介や問題提起。 第2部 グループ活動による共生のアイ ディア出しとその共有。	小山紳一郎	河崎智子、土井 ヨシミ
6	平成30年12月4 日(火) 10:00～11:30	1.5	蘇我コ ミュニ ティセ ンター	23人 4人	外国出身パパ マによる絵本 の読み聞かせと子 育て交流	イラン、エルサルバドル、ロシア、フラ ンスの出身者が母語で絵本を読み聞かせ し、絵本の一部を参加者もいっしょに 言ってみたり、各国の手遊びを体験し たりした。また、子育ての話題で交流を した。		鈴木恵美子

計 13.5
時間

外国人市民の町内会活動参加促進

回数	開催日時	時間数	場所	相手先	協力先	概要	補助者名
1	平成30年7月3 日(火) 11:00～11:30	1	中央区役 所	中央区町 内自治会 連絡協議 会理事会	千葉市中央区役 所地域振興課	防災の観点から町内会と外国人をつなげるために、地域の自治 会長で結成される、町内自治会連絡協議会理事会で、多文化防 災の必要性を説明した。 ⇒ある自治会長から、避難所運営委員会で、同様の説明をして ほしいと依頼を受けた。	
	平成30年7月14 日(火) 10:00～12:00	2	院内小学 校	院内小学 校区避難 所運営委 員会	同左	上記の依頼を受けて、避難所運営委員会の出席者に対して多文 化防災の重要性を説明した。さらに、防災訓練などに外国人を 巻き込んでいけるよう、それまでのロードマップと協会ができ ることを提案した。避難所運営委員会は年に1回、その年の役員 が出席して簡易トイレの組み立てと下水路の確認を行うという 機会しかなく、残念ながら多文化防災をその後段階的に進めて いける環境にはないと思われる。	
	平成30年8月3日 (金) 10:00～11:00	1	千葉イス ラム文化 センター	千葉イス ラム文化 センター	同左	モスクを持つ千葉イスラム文化センターを訪れ、理事長と留学 生ムスリム1名に多文化防災および地域との連携についてニー ズや可能性を相談した。本モスクの利用者はほとんどが千葉大 学の留学生で入れ替わりが激しいことから個々人が町内会の会 員になることは難しいが、団体として町内で役割が持てれば、 ムスリムのためにも地域のためにもなる、という共感が得られ た。10月以降に町内会役員にイスラム文化センターを知ってもら い留学生らと懇談する交流会が持てるよう調整したが、今回は 実現しなかった。	

計 3.5
時間

企業に対する日本語教育啓発

回数	開催時期	内容
1	平成30年8月～ 11月	日本語学習環境整備の重要性を伝え、日本語教育の体制整備の一助とするため、外国人を雇用している、または雇 用を検討している企業のニーズ調査と、課題解決に向けた取り組みを検討。 賛助会員(個人711、団体105)あて(約820箇所)にアンケート調査を送付。また、ハローワークに外国人雇用可能 として求人票を出している企業のうち同意を得られた8箇所へも送付。 計9箇所から返答あり。返答あった中から何社かへ聞き取り調査を実施。

計

事業成果普及

回数	開催日時	時間数	場所	概要
1	随時			プロジェクトフェイスブック（ https://www.facebook.com/chibatabunka26 ）にて事業告知や事業報告。
2	平成30年6月14日（木） 10:00～17:00	5	旧文部省庁舎 6階 講堂	平成30年度都道府県・市区町村等日本語教育担当者研修（テーマ：育てよう！我が町の日本語教育の担い手～自治体における人材育成のいろは～）で事例発表（相互理解と日本語習得支援を両立させる取組と人材配置について）
3	平成30年9月8日（土） 12:30～17:30	5	文部科学省東館3階講堂 ホワイエ	平成30年度日本語教育大会・東京大会で、生活者としての外国人のための日本語教育事業 パネル展で発表。
4	平成31年2月3日（日） 11:00～16:00	5	市民文化会館小ホール	ちば市こくさいふれあいフェスティバルで事業成果をパネル展示・リーフレット配布した。

（１）特徴的な活動風景（２～３回分）

○取組事例① わたしの一步!! 外国人市民と共に生きるまちをつくる

【平成30年11月24日】

「わたしの一步！外国人市民と共に生きるまちをつくる」と題したセミナーを実施した。多文化化の状況や自治体の取組事例に関する基調講話のあと、地域に住む外国人市民と保健師から生の声をきくパネルセッションをおこなった。そのあと、外国人市民6人を交えたグループに分かれ、多様な言語・文化背景を持つ人々が暮らしやすいまちをつくるために、ひとりひとりが身近なところでは何かできることについてアイデア出しをした。



○取組事例② 外国出身パパママによる絵本の読み聞かせと子育て交流

【平成30年12月4日】

ロシア（ロシア語）、エルサルバドル（スペイン語）、フランス（フランス語・ベトナム語）、イラン（ペルシャ語）、のゲストの絵本の読み聞かせを聞いた。聞き終える度に、絵本の一文をみんなで一緒に言ってみたり、単語を覚えたりした。また、各国の手遊びを一緒に体験したり、ゲストに質問したりして交流した。



（２）目標の達成状況・成果

【多文化理解セミナー】

すべてのセミナーについて参加者全員が「よかった」「とてもよかった」とした人が90%以上を占めた。この定量評価および以下の自由コメントから、地域住民の多文化理解促進および対話の機会創出という目標を満たす取組になっていたと言える。

フォーラム型セミナー

「日本に住む外国人がどんなことに困っているのか、自分の気づいていなかったことが聞けた」「言葉を通じ合わせることがいかに難しく大変なことかが認識できた」

料理セミナー

「各国の各国の講師の方々の方々のあたたかくすばらしい人柄に触れることができ、おなかも心もいっぱいになった」

(3) 今後の改善点について

料理や絵本などの交流型、およびフォーラム型セミナーのイベントは外国人市民が日本語を使って指導者や情報提供者の役割を果たすことができる体験型の取組として広がりが期待される。協会が中心となって企画や運営をおこなうだけでなく、市民活動として交流員や一般市民が企画により中心的に参画できるような体制を整えていきたい。また、イベントが真に「多文化理解促進」につながっているかどうか、事後意識調査も要する。

＜取組 4＞											
取組 4	取 組 の 名 称		ちば多文化協働ネットワーク整備								
	取 組 の 目 標		「防災」「子育て」「介護」などの生活場面で起こっている（または起こると想定される）多文化化に伴う課題を共有し、解決に向けた連携をおこなうための持続可能なネットワークの拡充								
	取 組 の 内 容		連携を具体化させるため、情報収集・ヒアリング・意見交換を関係部署と行う。								
		空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備		・各分野で個別に起こっている課題を共有することにより、多文化社会の課題解決に向け、横断的な基盤が強化される ・関係機関の課題を共有し、協会がサポートすることによって、各機関に来る外国人に対する情報提供の方法が改善されるほか、日本語教育の重要性が周知される。								
	取組による日本語能力の向上										
	参加対象者		保健福祉センター、介護施設、各区の行政担当等、多文化化に伴う課題に直面する各関係機関					参加者数 （内 外国人数）		18人 （0人）	
	広報及び募集方法		個別に要請								
	開催時間数		総時間数1.5時間				A: 1.5時間×1回				
	主な連携・協働先		参加対象者に同じ								
	開催場所		千葉市国際交流プラザ								
参加者の出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
										18	
実施内容											

多文化協働ネットワーク整備

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	連携先
1	12月21日	1:30	千葉市国際交流プラザ	18人	外国人材の受入 総合的対策 検討	総務局総務部総務課、総合政策局総合政策部政策企画課、財政局財政部資金課、市民局市民自治推進部市民総務課、保健福祉局保健福祉総務課、こども未来局こども未来部こども企画課、環境局環境保全部環境総務課、経済農政局経済部経済企画課、都市局都市総務課、建設局建設総務課、消防局総務部総務課、病院局経営企画課、教育委員会教育総務部総務課、中央区役所地域振興課、美浜区地域振興課、総務局市長公室国際交流課

（１）特徴的な活動

【12月21日】 「千葉市国際化施策推進会議」に出席し、千葉市の外国人材の受入総合的対策について情報収集をした。

（２）目標の達成状況・成果

関係機関のネットワーク強化を図る取組は、前年度まで継続してきた形式では実施ができなかった。
--

（３）今後の改善点について

次年度以降、外国人受け入れ拡大に伴う自治体施策の議論において協会として果たせる役割を積極的に示し、本事業をとおして得られた知見や人的リソースを関係機関の連携強化のために活用したい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

外国人の日本語学習の質の向上と機会拡充、および多様な言語・文化を背景に持つ市民同士の対話を通じた相互理解を図る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

各自事業でのアンケート結果のとりまとめとともに、事業担当者・コーディネーターによる成果と課題の報告をもとに、運営委員によって事業評価を行った。成果について委員からは下記のような評価があった。

○日本語教育の取り組みについては、年々質が向上し、より日本語に対する自信・達成感につながり成果として表れている。

○生活に密着したテーマについて意見交換することにより異文化の理解促進を図るという取り組みは評価できる。
・支援者が研修を通して、対話型の活動の重要性に気づきを得たことは評価できる。

○本事業は、「外国人住民に対する日本語教育の質の機会拡充・質の向上」を事業目的の一つとしており、さまざまな学習活動内容をより充実させていることは大いに評価できる。とりわけ、本年度の「よみかきクラス」の取り組みは、従来の読み書きクラスとは全くその趣旨を異にしており、多面的な思考活動を促すさまざまな仕掛けを用意し、結果的に受講者の複眼的思考、自立を促す新たな意義あるチャレンジと高く評価したい。この取り組みは外国人住民の社会参加を促すためのより高次なプログラムである。本年度はパイロット的な取り組みとなつてはいるが、外国人材を育成し、多文化協働地域を構築するための日本語教育の新たなプログラムとして発展してほしい。

・多様な言語・文化を背景に持つ市民同士の対話を通じた相互理解を促進する上で、日本人の異文化対応力は重要である。外国人住民のための日本語支援人材の育成には時間を要し、さまざまな課題に直面するが、本事業では日本語交流員、中核交流員の育成に果敢に通じ組んでおり、その意義は大きい。

○経年の事業を通して、さまざまな成果を生み出してきており、取り組み全体としては非常に高く評価できる。今後、外国籍住民が日本社会にさらに増加することが見込まれており、対話型で学びと活動の主体性を学習者に付与するという千葉の取り組みは、外国籍住民が主体性を持って社会参加をするための入り口として、非常に重要な先行的取り組みになると期待している。

○5か年の試行錯誤から、日本語クラスや支援者研修の内容を洗練させることができた。特に、多様性から新たなものを生み出すという考え方に基づいて協働学習を中心にした結果、参加者の学びを増すことができた。日本語クラスにおいては、運営に協力する中核メンバーの存在により、外国人参加者の背景や価値観に寄り添いながら自己表現を促進するという形の学習活動が効果的に行われた。支援者研修においても研修の中に対話を取り入れることによって、外国人との日本語対話をととした相互理解の意義を体験的に理解してもらえたことがアンケートコメントから窺える。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・地域で活動する保健師の方との協働を通して、各保健センターや地域の子育て団体とつながりを持ち、新たな事業の可能性ができた。また、より広く事業周知をすることができるようになった。

・外国人文化コミュニティとのつながりを通して、より広く日本語クラスやその他のイベントの周知をすることができた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・支援者研修では公民館やことぶき大学などへちらしを配布し、広く広報した結果、受講者増につながった。

・当協会ホームページ・フェイスブック、プロジェクトフェイスブックページで、日本語クラスや支援者研修・多文化理解セミナーのちらしを掲載し、広く周知するとともに、千葉市役所の市政だよりでも交流会の参加募集を行い、市民へ広く周知を行った。

・入国管理局出張所やハローワークでも日本語クラスをちらしを掲示してもらい、より多くの外国人へ参加募集を行った。

・プロジェクトのフェイスブックページを利用して、該当事業に参加した人の振りかえりにもなるよう、事業の報告を行った。

・また事業成果をリーフレットにまとめ、公共施設などで配布したり、外部イベントなどでも配布し、広く市民に成果を普及することに努めた。

(5) 改善点、今後の課題

運営委員からは下記のように改善点や課題が指摘された。

○多文化理解についても、内容は興味をひくものとなっているが、今後の発展と考えた時に、楽しかったで終わってしまう内容ではいけない。

○あるべき姿までのギャップを埋めるには、課題の把握が必要であるが、課題を把握するための参加者アンケート等の回収数が少ないと思われる。参加者を増やすのは容易ではないが、周知方法や開催日時について検討してもらいたい。

○日本語支援人材の育成プログラム修了後の日本語交流員のコメントを見てみると、表現は異なるものの、外国人受講者との対話活動の中で多くを学んだという記述が多くみられる。それらの学びをどのように実践に生かしてしていくのか、次の課題が問われている。これまでの実践の分析から、日本語交流員、中核交流員に求められる資質、スキルについてはある程度明らかになっているので、今後は、求められる資質、スキルなどの具体的な内容を詳細に検討し、ファシリテートしていく力をどのように育成していくのか、一連の育成プログラムを構築し、示してほしい。

○国際交流協会の運営に関しては、千葉市の財政上の対応の変化により、資産の運用ができなくなったことや、収益を上げることによる補助金の減額が想定されることなど、さまざまな困難が生じていることは理解している。その困難は理解した上で、しかしながら、やはり行政、一般市民へのアドボカシーが不足しているのではないと思われる。参加者の増加、理解者の増加は今後の事業継続や新たな外国人支援事業を進める上で必須のものである。千葉の取り組みのような先進的なことをやっても行政・市民の理解が得られないのであれば、およそ、日本全国で自立化できる事例はほとんどないのではないかと懸念する。今後、アドボカシーとそれを通じた運営・実施体制の基盤強化に取り組んでもらいたい。

○協会が今後の外国人の日本語学習について質・量ともにニーズに応えられるよう、中核的学習支援者が育成要員になれるようなシステム化が待たれる。同時に、協会で実施している日本語教育事業の取組全体を見渡しながらバランスを見直し、日本語クラスが最大限に生かされるような改善が可能と思われる。地域全体の日本語教育体制整備に関しては、国際交流協会の立場でできることには限界もあり、日本語教育の法制化とともに自治体主導で地域の関係機関のネットワーク化を図ってほしい。

○日本語クラスの充実と共に、クラスを進行できる指導者の確保が課題となる。また、日本語クラスを安定的に自立的に実施していくためには、財政面での課題もまだ残るので、今後は行政や企業とも連携してそれらのことについて取り組むよう努める。

(6) その他参考資料

ちらし

事業成果普及リーフレット